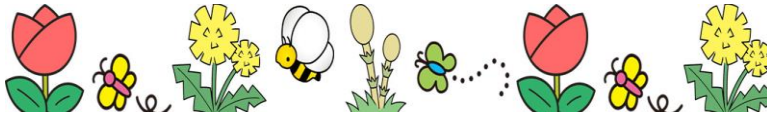


希望を語る

2000 年 8 月発足

22 年の歴史を持つ患者会“希望を語る会”ニュースレター



希望を語る会事務局：健康増進クリニック
Tel.03-3237-1777 Fax.03-3237-1778
www.kenkou-zoushin.com info@kenkou-zoushin.com

コロナで学んだこと

院長 水上 治

このゴールデンウィーク明けにコロナ対応が5類になることで、私はホッとしています。この3年間我々にとってまさに初体験の連続でしたが、インフルエンザ並みの死亡率に低下したことで、社会が元に戻っていくでしょう。

私が学んだことは、いくつかあります。

1. 自己治癒力という生命の法則がわれわれを支配していることです。結局生命力が低い人が重症化し亡くなりました。生活習慣がヘルシーな人ほど、コロナウイルスから守られていること、罹患しても軽くて済むことが世界的に証明されているのに、ほとんど報道されませんでした。
2. 定期的にビタミンC点滴を受けていた人は、コロナにはほとんどかからず、罹っても軽症でした。わが国ではほとんど話題になりませんが、諸外国では、コロナ肺炎の治療にビタミンC点滴が用いられ、著効を得ています。改めてビタミンC点滴の強力な抗ウイルス作用を思い知らされました。
3. 分析医学の限界が明らかになったことです。初期にコロナウイルスの遺伝子構造が明らかになりましたが、著効のある薬物を作れませんでした。最新のマイクロRNAワクチンが期待され接種されましたが、効果は私には不満であり、かつ予期せぬ副作用で多数の人が犠牲になり、後遺症で苦しんでいる人も少なくありません。個人的には施設に入っていた私の99歳の母が3回目の接種後高熱が続き亡くなりました。ワクチン接種を知らされなかった家族としては、後悔が残ります。

世界的にはほぼ10年ごとに新しいウイルスの世界的な流行が起きていますから、そのうちまた起こるはずですが、我々は日頃から健康的な日々を送るよう努力することで、疫病から免れるしかありません。そしてそれが我々の幸せな人生に直結しているのです。

院長 水上 治

モーツァルトの生まれ故郷であるオーストリアのザルツブルクにはもう 10 数回以上行っていきます。近くにある世界的に有名なラドン洞窟に患者さん達と訪問するからです。ついでに音楽祭で世界最高の音楽を聴き、おいしいものを食べ、近くの自然を満喫します。地元のザルツブルクの人の生き方から多くのことを学びました。

1. 自然療法の充実

ラドン洞窟は健康保険医療となっていて、人気があり、外国人も多数集まり、毎日 600 人が治療を受けています。自然療法についても、西洋医が理解してくれますから、標準治療と共に受けやすい環境が整っています。（写真：ガシュタイナー・ハイルシュトレン病院）

2. 音楽芸術

夏の音楽祭で、ロビーでのスナッフです。ベルリンフィルやウィーンフィル、ポリーニ、ヨーヨーマなど多数の超一流音楽家が集まりますので、耳が肥えました。絶対に東京では無理です。音楽好きの私はここでどれだけエネルギーをもらったか分かりません。



着飾った紳士淑女



ベルリンフィルハーモニー
管弦楽団



ヨーヨーマ

3. 自然の一部

ザルツブルクは山々に囲まれ、遠くにアルプスが望めます。ハイキングや登山も気軽にできます。サイクリングロードも整っています。車で 30 分も行けば、ザルツカンマーグートと言われる 60 ものきれいな湖のある別荘地帯に到着します。



ガシュタイナー・ハイルシュトレン病院



近くの山へ気軽に

4. 宗教や霊性

ホリスティック医療を掲げている病院が多いのは、自然療法はオーケーで、スピリチュアルなケアが受けられるということです。即ち、必要に応じて、神父さんに祈ってもらえるなどということです。ここにはまだ素朴なカトリック信仰が残っています。日本では医療には宗教はタブーですから、こちらでは医療の懐が広い感じです。胃妻などで無理な延命をすることはなく、家族や友人の下で過ごすことを重視します。

5. 地元の食事文化

正直ドイツ料理がおいしいとは思いませんが、オーストラリア料理は私の口に合います。ここが、オーストリア・ハンガリー帝国でしたから、東西の食文化が融合し、かつ地元のミネラル豊富な岩塩を調理に用いますので、美味な店が多い感じです。少なくともこちらの人には、こういった食事が自然なのです。



湖畔の別荘地帯



ステファン大寺院



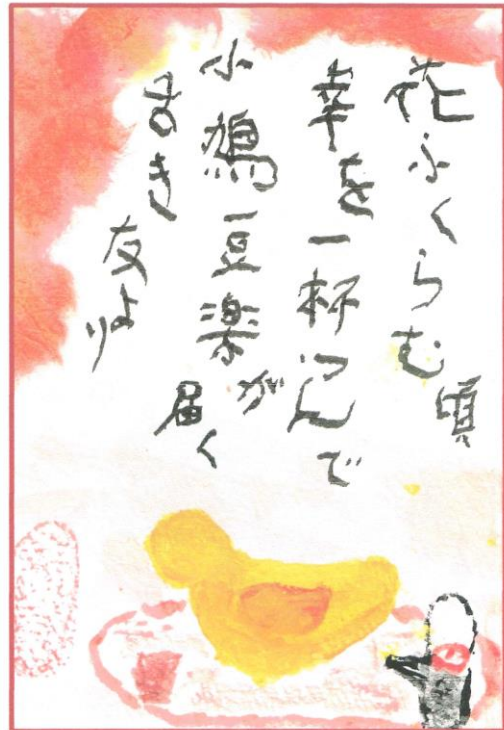
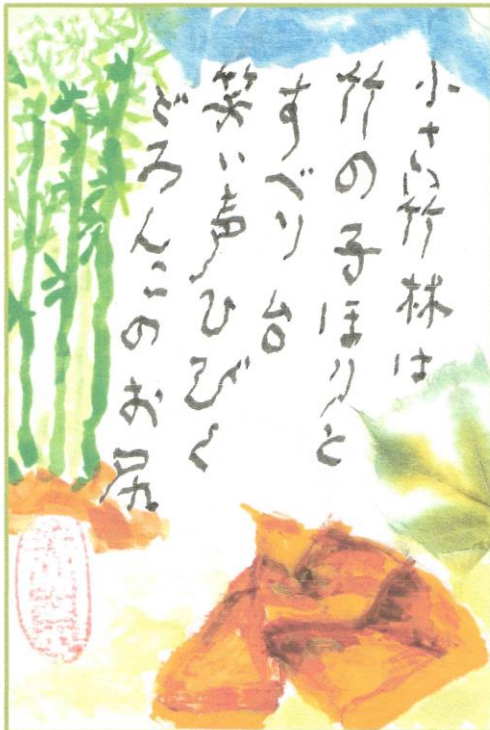
美味しい料理

ザルツブルク人は、人生を楽しみ、自然を楽しみ、音楽を楽しみ、仕事に集中し、来世を信じ、悔いのない生き方をしている様に見えます。そして自然医療を大切にしています。我々日本人が学ぶことは多々あります。

みーこねーちゃんの絵手紙

佐藤美恵さま

佐藤様は H7 年に脳梗塞で左半身麻痺となり、H24 年より当院にて鍼治療を開始しました。元副院長の加藤医師の勧めで始めた絵手紙。もともとは右利きですが、左の麻痺を克服するために、左手で書いています。

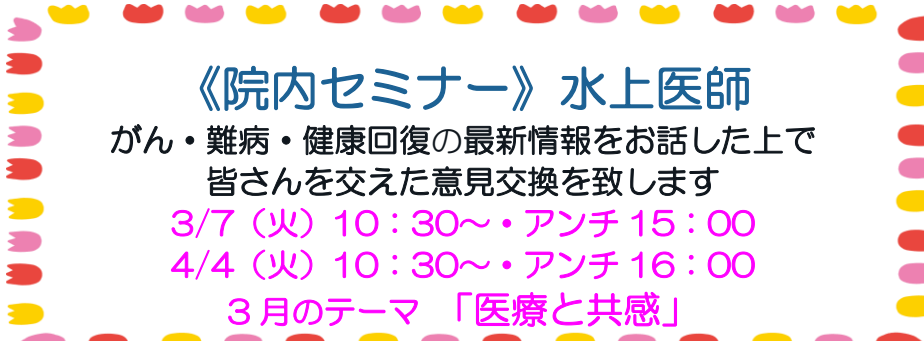




亡き人を思う
満開の花に
梅が咲いた
隣の家の
主のいない
いやされた
切つてもらう
孫につめを
私は
手の不自由な

五行歌
小林美智代さま

九重（御池）22年12月 S.S



《院内セミナー》水上医師
 がん・難病・健康回復の最新情報をお話した上で
 皆さんを交えた意見交換を致します
 3/7（火）10:30～・アンチ15:00
 4/4（火）10:30～・アンチ16:00
 3月のテーマ「医療と共感」

曜日	治療時間	電話受付
月・火・木・金	9:30～16:30	9:15～16:00
日曜日（月2回）	9:00～14:00	8:45～14:00

※ 日曜診療日：3/5 & 3/19 ・ 4/9 & 4/23
★ 重要なお知らせ ★
4月は金曜日のみ時短を解除いたします
それぞれの治療受付時間はスタッフにお尋ねください



🌸 今月のお花 🌸 木瓜・菊・ドラセナ

梅の花が満開。春ですね。

今から13年前、青梅市の吉野梅郷の梅がプラムボックスというウイルスに感染し36000本もあった梅の木を、すべてを伐採するという悲しい出来事がありました。その後、2016年に6本の苗木から植え始め、2019年には1200本の苗が植えられ、現在、幼木ながらも可愛い花を咲かせています。

今月のお花の木瓜もこの大きさになるには、長い年月がかかったのでしょうか。そんな健気に咲いているお花達。改めて1本1本に感謝しつつ、心を込めて真剣に生けなければと思いました。

青梅にいらしたら是非、梅たちに「頑張れ！」と声をかけてあげてください。

M.I

木瓜の花言葉「先駆者」「妖精の輝き」

★「希望を語る」は患者さまの体験談や、また特技を生かしたメッセージ、いま語りたい事、その他何でも、情報交換の場を提供させていただき冊子です。写真や原稿などございましたら是非、事務所またはスタッフまでお知らせください。お待ちしております。